

道徳教育～天草支援学校実践～

道徳教育は、学校や生徒の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本として、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。その中で、道徳科は、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。

したがって、各教育活動での道徳教育がその特質に応じて意図的、計画的に推進され、相互に関連が図られるとともに、道徳科において、各教育活動における道徳教育で養われた道徳性が調和的に生かされ、道徳科としての特質が押さえられた学習が計画的、発展的に行われることによって、生徒の道徳性は一層豊かに養われていく。と“中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編”に記述されています。

以上のことより、私たちは道徳教育をより充実させるよう努めると同時に、学校の教育活動全体で道徳性を養っていくことを念頭において教育活動に取り組む必要があります。そこで、なかなか知ることができない天草支援学校の各学部の道徳教育の取り組みを紹介していきたいと思います。

小学部

小学部では、はーとグループ、にこにこグループ、りんどうグループの3グループに分かれて、2週間に1回道徳科が行われています。習熟度別でグループ分けがされています。

<はーとグループ>



- ・1年生2名、2年生4名、3年生1名、4年生2名の児童で構成しています。
- ・簡単なお話を聞いて登場人物の気持ちを考えたり、ロールプレイを通して行動化を目指したりする活動を自分たちの普段の生活に落とし込みながら行っています。

<にこにこグループ>



- ・2年生1名、3年生1名、4年生1名で構成し、ハートグループとりんどうグループの中間に当たる実態のグループです。
- ・小学校1、2年生の道徳科の教科書を使っています。
- ・登場人物の気持ちや行動の変化を考えるために、友達の意見をしっかり聞くよう促したり、個に応じて教師が発問を工夫したりしています。

<りんどうグループ>



- ・5年生3名、6年生3名の児童で構成されています。
- ・授業の導入で題材に関する写真(様々な生活場面)を呈示し課題意識をもち、題材を使った学習を通して内容項目を高めま
す。授業終末でもう一度冒頭で呈示した写真を見て、実生活と
重ねて考えることができるように、まとめを工夫しています。

中学部

中学部では、基本的には各学年で授業を行っており、内容として小学校3、4年生の内容項目を扱っています。しかし同学年であっても生徒の実態は幅広いため、それぞれの生徒に合わせて、考える内容やワークシートを工夫しながら授業を行っています。また、内容項目によっては、一緒に授業を行うことが難しい、又はグループで学習した方が深まるといった場合にはその都度グループを編成して授業を行っています。

<ABグループ>



<Cグループ>



「礼儀」や「相互理解」の内容項目の際には、16人を3段階、2つのグループに分けて授業を行いました。

「礼儀」としてA段階「①挨拶②言葉遣い③ふるまい」、B段階は「①挨拶②言葉遣い」、C段階では「①挨拶」について考えました。A段階では考える活動や友達と意見交換する活動を中心に、C段階では考えたことを実践して身につけることを中心に学習を進めました。

高等部

高等部では、各学年で(2年生は一般学級と重複障がい学級に分かれて)グループ編成を行っています。今年度は、3学年ともにクラス毎での実施となっています。各学年に道徳教育担当がおり、年間指導計画をもとに授業実践をしています。教材活用では、「私たちの道徳 中学校」を使用することが多いです。

<1年生>



- ・「私たちの道徳 中学校」の内容と、ワークシートにずれが生じないように配慮しています。
- ・クラス毎に実施しているため実態差があり、難しさを感じています。

<2年生>



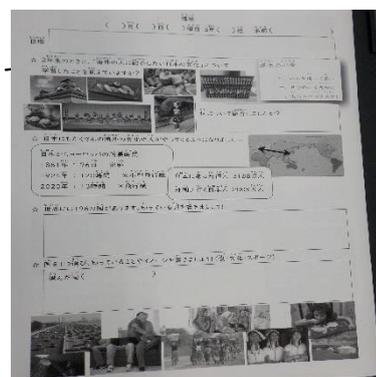
- ・題材毎に、動画や写真を活用してイメージしやすいように工夫しています。
- ・クラス毎に授業を実施しています。
- ・実態差があるので、T2や T3による声かけやワークシートの工夫が必要
です。

<2年生重複障がい学級>



- ・動画や写真を活用してイメージしやすいよう工夫しています。
- ・発表場面を設けるよう工夫しており、具体的に写真やイラストを大きめに印刷したり、選択場面を設けたりしています。
- ・実態差の大きさや興味・関心が異なるので、教材をいろいろと工夫しながら取り組んでいます。

<3年生>



- ・黒板での写真の呈示は、カラーにし、ワークシートにも写真を載せ
イメージを持ちやすいように工夫しています。
- ・写真から選択できるようにワークシートを工夫しています。
- ・(例)「国際理解・国際貢献」では、社会科の学習と関連させる等の
応用をしました。

～ポイント～

各教育活動での道德教育がその特質に応じて意図的、計画的に推進され、相互に関連が図られるとともに、道德科において、各教育活動における道德教育で養われた道德性が調和的に生かされ、道德科としての特質が押さえられる学習が計画的・発展的に行われることによって、生徒の道德性は一層豊かに養われていきます。



各内容項目を生徒の実態を基に把握し直し、指導上の課題を具体的に捉え、生徒自身が道德的価値の理解を基に自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めることができるよう、実態に応じた指導をしていくことが大切です。

そして、生徒が今後、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道德的実践を行うためには、道德的価値の意義及びその大切さの理解が必要です。

～最後に～

今回は、天草支援学校の各学部の道德教育について紹介しました。各学部工夫されていることや、課題などがあることがわかりました。今後、年間指導計画を見直す際に活用していただければと考えてます。

道德の授業で学習したこと、教科別の授業で学習したことなど、それぞれの場面で学んだことを生活の場面で生かすことができるよう、指導・支援していく必要があります。「各教科等との密接な関連」や「計画的、発展的な指導による補充、深化、統合」を念頭に、「よりよく生きるための基盤となる道德性を養う」道德教育を目指していきましょう!!

